



中野本郷

令和5年度12月号

令和5年12月1日

中野区立中野本郷小学校

校長 福山 広伸

児童数 321名

季節を感じて

副校長 井上 江見子

校庭やグリーンガーデンの紅葉が終盤を迎え、だんだんと冬の訪れを感じ、冬本番へと向かっていく季節となりました。令和5年もういよいよ残り1か月になりました。子どもが楽しみにしている冬休みまで、あと3週間程です。

12月のカレンダーを見ると、7日大雪（たいせつ）、22日冬至（とうじ）と書いています。どちらも古くから伝わる二十四節気の一つで、他には春分、秋分、立春、立夏、立秋、立冬、夏至などがあります。

立冬は、冬の訪れを示す言葉で、11月8日でした。今年は夏に逆戻りしたような11月上旬の気候でした。冬至は一年の中で最も夜が長いと言われています。立冬と同様に固定された日ではありませんが、今年は12月22日です。冬至と聞くと、本格的な冬の到来を感じる時期だと気付かせてくれます。冬至には無病息災を願い、カボチャを食べます。何でもカボチャの黄色は魔除けの色であり、栄養価も高いからだそうです。他にも柚子湯に入る風習があります。私は高校を卒業後、一人暮らしをしていました。銭湯に行くと、この冬至の日には、沢山の柚子が湯船に浮き、柑橘系の香りを吸って特別感を味わい、得した気分になったのを思い出します。寒い冬の季節を感じると共に、もう年末だなあ、これからは日が長くなっていくのだなあと考えたものです。日本には四季があり、二十四節気に合わせた風習や行事があります。季節を感じる感性が育ちやすい環境は、日本のよさだと思います。

私が担任をしている時、子どもに好きな季節は何か、質問をしました。過ごしやすく桜が咲く春や紅葉の秋が多いと予想していましたが、夏や冬が好きな子どもも沢山いました。理由は、夏休みや冬休みがあるからです。確かに、夏休みには帰省や旅行で、いつも行かない場所、遠くへ出掛けることがあります。また、冬休みに子どもは、クリスマス、お正月でプレゼントやお年玉をもらい、ウキウキした気分になります。さて、この冬休み、子どもたちは、どのように過ごすのでしょうか。年の締めくくりとして、一年を振り返り、ご家族でお子様の成長を喜び、新たな気持ちで新年を迎えてほしいものです。

本校のグリーンガーデンに入ると季節を感じられます。11月にはみかんの実が鈴なりにつきました。長年勤務している主事さんによると、こんなに実がついた年はないそうです。また、1年生が生活科で植えたさつまいもを掘っていました。大量に採れ、しかも中にはラグビーボールのような形の太いさつまいもがいくつもありました。暖かい気候の影響なののでしょうか。みかんもさつまいもも豊作でした。今のグリーンガーデンともあと4か月でお別れです。3年間、旧向台小学校に校舎を移転し、戻ってきた新校舎では、新しく生まれ変わったグリーンガーデンが子どもたちを迎えてくれます。

自然や行事から季節を感じながら、年末年始を過ごし、子どもたちにはこの時期にしかできない体験をして冬のよさを感じてほしいです。

12月の生活目標 身の回りをきちんとしよう

今月の生活目標は「身の回りをきちんとしよう」です。主な指導事項は「掃除、校内美化」「身の回りの整頓」です。現在、掃除時間を設けず放課後に当番児童が掃除をしています。少ない人数でも子どもたちは一生懸命取り組んでいます。現在の校舎での生活は今年度で終わりますが、最後まで綺麗に使うことができるよう日々指導をしていきます。また学習中、筆箱の中身がそろっていなかったり、ノートが準備されていなかったりすることがあります。日頃から筆箱の中身を点検すること、学習用具をそろえることは、学習の構えをつくり、学習への意欲にもつながります。この冬休みに大掃除とともに、ご家庭でもお子さんと一緒に学用品を整理し直し、新年の学習が気持ちよくスタートできるようご協力ください。（生活指導委員会）